

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人 啓蟄会
事業所名	グループホーム お城下
所在地	愛媛県松山市千舟町4丁目4番地5西田千舟町ビル
自己評価作成日	平成23年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体の西田クリニックとの医療連携。自由にして行動制限しない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、常に理念を意識して利用者本位のケアを日々行っている。協力医との24時間の連携体制を構築しており、利用者は安心して生活している。利用者は、それぞれのペースでゆったりと穏やかな時間が過ごせるよう、共用空間や居室づくりがされている。散歩や買い物に商店街やデパートに頻繁に出かける等、外出の支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームお城下
(ユニット名)	つる(3階)
記入者(管理者)	
氏名	木原 弘美
評価完了日	平成 23 年 10 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) お城下の理念は易しい言葉で表されているが、その意味をみんなで考え支援の中に具現化するように努力している。また、入居系でありながら在宅系の考え方で支援の継続性について随時話し合いをしている。また、その方の状態に応じて在宅へ復帰または他施設へ転院支援等も行っている。</p> <p>(外部評価) 本部長作成の具体的な言葉で表現した理念を、職員は朝礼や申し送り時に唱和をしたり、食後など繰り返し話し合いを行い、職員間で理念を共有し、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の人が何処に居るのか分かりにくい。同ビル内1階のコンビニを利用する際に、店員さんと利用者様で交流がとれている。</p> <p>(外部評価) 事業所は繁華街のビルの中にあり、ドーナツ化現象が進み地域の住民も少ないため、町内会の活動はあまりない。そのため、隣の町内会まで範囲を広げて声をかけ、利用者との交流を行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 三番町子供神輿にホームに入ってもらい、子ども達また、引率の大人の方々にも認知症の人の理解を知ってもらえている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 平成23年度第1回運営推進会議で議題に挙げ課題を全体で話し合った。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員、利用者の家族等に参加してもらい2か月毎に開催している。自己評価や外部評価の結果、事業所の取り組み等を議題にしている。会議と行事を一緒に開催し参加しやすい工夫している。災害対策や食事等について出された意見を実践し、サービスの向上に活かしている。	地域性もあり地域住民の代表者の参加が得られにくい事情もあるが、運営推進会議を活かしてサービスの向上を図るために、多様な分野の方々に参加してもらえよう、今後も独自の工夫をするよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議では毎回、市役所介護保険課から出席をしていただき、評価をしてもらっている。	
			(外部評価) 介護保険課担当者とは、看取りについて等、気軽に相談や問い合わせができる関係を構築している。また、運営推進会議に参加してもらい、意見交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解して実践している。拘束が本人をどんな気持ちにしているか、自分だったらどう思うか話し合って拘束をしない実践をしている。その人によって、工夫し畳み部屋を作っている。	
			(外部評価) 事業所内の勉強会や外部で行われる研修に参加し、知識や技術を身につけたり、職員間で話し合いを行う等、身体拘束についての理解を深めている。安全に配慮しながら、利用者の行動を制限しないよう玄関等には施錠をせず自由に過ごせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で常に話し合いをしている。事例を通して全員の注意を喚起し実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について話し合う事あるが、今は利用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の慌しい時を避けて、事前または入所して落ち着いてから十分に説明している。また、質問も受けて納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者の意見・希望をお聞きできることからできるだけ早く実践している。できないことも誠実に説明して了解を得る努力をしている。 (外部評価) 各階入り口にご意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情申立先を明記する等、家族が要望を出しやすいよう環境を整えている。家族とよく話し合いをしながら出された要望等を運営に反映させるよう努め、どのように反映されたか等の結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 反映している。業務改善委員会・レクレーション委員会など設け職員間で話し合い運営している。また、チーム全体で援助を行っていくという実感が沸く様に努力している。</p> <p>(外部評価) 職員は会議の時や、普段の業務中に総括担当者に意見や提案を伝えることができ、総括担当者は聞き取った意見等を本部長に伝えている。本部長は、職員の意見を可能な限り運営に反映させるよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 努めている。常に勤務との調整を行いながらできるだけ研修を行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 進めている。内部・外部の研修に個々人の能力に応じて受ける機会を確保している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会への参加、また、お招きをしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人の不安を軽減したり溶け込み易い雰囲気づくりを心がけている。ご家族が認知症を認めたくない気持ちもあり、ご本人の真実を見られない場合も多々あるが、ご家族のプライドに配慮しつつ、少しずつ、ご本人の自然な姿、気持ちを気づいていただく様に配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用者のはじめに見学をしていただきホームでの雰囲気を感じていただいている。ご家庭を訪問してご本人の普段の姿を知るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞き、ホームで受け入れることもできるかできないかを見極め、他のサービスを提案もしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立支援の立場から、出来る所はしていただき、話し合いながら作業などを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族との話し合いのできる協力はしていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。自由にご本人がご家族に電話をしたり、ご家族と出かけたり、外泊も行っている。面会時間も常識範囲内で自由だから、面会者も非常に多い。 (外部評価) 家族や親族の訪問があり、帰宅や法事参列ができるように働きかけたり、電話で話ができるよう支援をしている。事業所のあるビルの1階のコンビニに買い物によく出かけ、馴染みの関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お気に入りの人と自由に話をしたりお部屋を訪ねて、一緒にテレビを見たり本を貸し合う事もされている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族が希望されれば、行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 施設の決め事で生活を括らないで、食の嗜好や生活習慣などさまざまな点で、ご家族からの話や聞き取りの中で汲み取り、できるだけ自由に窮屈でない生活を個々でしていただいている。 (外部評価) 事前に家族に聞き取ったり、利用者との会話の中から思いや意向を把握するよう努めている。把握した情報は利用者個人の経過記録に記録し、利用者本位にケア等が提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できるだけご本人の心情を害さない範囲で普段のお話の中から、生活歴や生活習慣を知り、その人らしい考えや行動など把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り・連携を取って知った情報をみんなで共有し、ご本人の今の状態をできるだけ正確に把握し援助に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) みんなで月1回モニタリングを行い、今の援助目標で 本人の状態にあった援助ができていないか確認してい る。また、新しい課題を見つけ目標達成できるように 援助している。	
			(外部評価) 介護計画については、管理者と職員で毎月モニタリ ングを行い3か月毎に見直しを行っている。利用者の状 態に変化があった場合はそのつど見直しを行ってい る。作成された介護計画は利用者や家族に確認を取っ ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 行っている。経験が浅いスタッフには例を挙げて記録 の仕方や、情報の援助への活かし方を教えている。特 に「気づき」については記録するように勉強会を行っ ている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 行っている。マニュアルどおりに行うべき事と、その 人の感性を生かす事と、両方をいかせる努力をしてい る。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない自由な雰囲気支援している。子 供会との交流・コンビニへ行く事で交流する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 普段の受診に関しては、協力体制にある西田クリニッ クを受診していますが、特別にご本人が指定される主 治医があればご希望どおり受診してもらっている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関を受診できるよう支 援している。受診については家族に同行をお願いして いる。事業所は受診結果を把握し、協力医と連携し、 利用者の健康管理を適切に行うよう努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 行っている。クリニックのナース、ホームのナース介 護スタッフとの連携で、ご利用者様の体調変化につい て常に情報交換を行い体調管理に勤めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 行っている。ご相談によってご本人とご家族のご希望 どおり行っている。入院などの際は主治医からの情報 提供。介護現場からの情報提供も行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化に対応できるように西田クリニックとの連携で お看取りまでの援助を行っている。入居時や時期に応 じて、主治医・ケアマネ・ご家族と話し合いを行って いる。</p> <p>(外部評価) 看取りについて、事業所の方針を重要事項説明書に明 記し、早い段階から利用者や家族と話し合いを行って いる。利用者の変化に応じて話し合いを行い、方針を 共有している。協力医や家族と共に支援に取り組んで いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべてではないが行っている。現在はホームナース・クリニックナース・主治医まで、すばやく連絡が取れる体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防講習者2名・消防訓練・年2回常に事故を未然に防ぐ様に注意を払って業務を行なっている。さらに、毎日の申送りに注意喚起を行っている。また、立地的に地域との協力体制に苦心している。 (外部評価) 消防署の協力を得て年2回の避難訓練を行っており、夜間を想定する等、利用者の安全を確保するよう努めている。事業所のあるビルについては耐震構造になっているが、職員は日々火災をおこさないよう気を付けている。	定期の避難訓練以外にも自主訓練を行ったり、地域住民の協力については得にくい状況ではあるが、運営推進会議を通じて協力を依頼する等、今後の取り組みに期待したい。また、食料や飲料水、簡易トイレなどの備蓄や備品を準備するよう望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いをしたり内部研修を行い、姓名の呼び方や折り目正しい接し方など、常に再確認をするよう努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。また、利用者本位のケアが提供できるよう職員間で話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の気持ちを汲み取って意思決定ができるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行っている。個々人の時計で行動できるように配慮支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行っている。自分の好きな服。自分の好きな髪形思うように散髪屋さんと話ながらおこなってもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 行っている。自分の嫌いなものは食べなくても代替の食べ物を作っている。また、食器拭き、食事の下ごしらえをスタッフと楽しんでいただいている。	
			(外部評価) 調理の下ごしらえや食器拭き等、利用者のできることを一緒にしてもらっている。利用者の状態に応じて、ミキサー食や軟食、刻み食を用意している。献立については、利用者の好みを大切にしながら柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 行っている。その人の状態に応じて食事の形態を変えている。現在は、普通食刻み・ミキサー食や口腔摂取が不可能な方には鼻腔からの栄養も取ってもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方ではできるところまで、できない方は職員の介助にて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 行っている。可能な限りトイレへ行ってもらっている。その方の能力に応じてトイレ誘導・はくパンツ・オムツ対応を行っている。	
			(外部評価) 利用者は重度化傾向にあるため、トイレでの排泄が難しくなってきたが、一人ひとりの排泄パターンを把握しリハビリパンツを使用しながら、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。リハビリ体操で動けない人も少しでも動けるよう工夫している。また、食事メニュー等にも工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴介助を行っている。車椅子レベルの人は2人介助にてできるだけ湯船に浸かってもらっている。また、季節に応じて、入浴剤の工夫もして楽しんでいた。	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう準備している。入浴の苦手な利用者には声かけや誘導を工夫しながら、一人ひとりに適した入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 行っている。基本的に日課は無く、自由に自分の時間帯で過ごしてもらっている、眠る時間も・場所も強要していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 行っている。症状や状態について常に申送りし、小まめに確認し主治医に相談して指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 基本的に自由日課なのでご自分のしたいことをしていただき、外出レクリエーションを自由参加で少人数で行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力をいただき、好きなときに行きたいところへ行ってもらっている。近所への買い物も介助している。	
			(外部評価) 近くの商店街を散歩したり、デパートに頻繁に出かけている。ぶどうやイチゴ狩りに出かけたり、季節の花を見に行く等、年間計画を立て、利用者の健康状態を考慮しながら外出支援を可能な限り行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) している。小口預かり金から出して個人で持ってもらって、ご自分で支払いをしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 行っている。手紙を出したり、自分で電話をかけたり自由にしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除の行き届いた清潔な環境づくりに努めている。また、季節季節で野の花などを飾っている。施設全体に明るい感じに努めている。	
			(外部評価) ビルの中にある事業所であるため、太陽光が取り入れられるような機材が設置されている。共用空間は清潔が保たれている。季節の花を活け、利用者の暮らしぶりの写真を掲示する等、居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや椅子の配置を変えたり、孤立する人の無い様努力している。時に席替えも行う。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分の気に入った馴染みの物も配置したり、好きな写真を飾ったりその人なりに、自由に行っている。	
			(外部評価) 居室の入り口には防炎加工された思い思いの暖簾が掛けられている。居室内には鏡台やいす等の使い慣れた物が持ち込まれ、さらに人形等が飾られており、利用者が落ち着くことができる、居心地のよい環境が作り上げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できる範囲でできることを疲れない程度に行っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人 啓蟄会
事業所名	グループホーム お城下
所在地	愛媛県松山市千舟町4丁目4番地5西田千舟町ビル
自己評価作成日	平成23年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体の西田クリニックとの医療連携。自由にして行動制限しない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、常に理念を意識して利用者本位のケアを日々行っている。協力医との24時間の連携体制を構築しており、利用者は安心して生活している。利用者は、それぞれのペースでゆったりと穏やかな時間が過ごせるよう、共用空間や居室づくりがされている。散歩や買い物に商店街やデパートに頻繁に出かける等、外出の支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームお城下

(ユニット名) かめ(4階)

記入者(管理者)

氏名 福島 真理

評価完了日 平成 23 年 10 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) お城下の理念は易しい言葉で表されているが、その意味をみんなで考え支援の中に具現化するように努力している。また、入居系でありながら在宅系の考え方で支援の継続性について随時話し合いをしている。また、その方の状態に応じて在宅へ復帰または他施設へ転院支援等も行っている。</p> <p>(外部評価) 本部長作成の具体的な言葉で表現した理念を、職員は朝礼や申し送り時に唱和をしたり、食後など繰り返し話し合いを行い、職員間で理念を共有し、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の人が何処に住んでるの分かりにくい。同ビル内のコンビニには利用者様が利用され、店員さんとの日常的交流がある。</p> <p>(外部評価) 事業所は繁華街のビルの中にあり、ドーナツ化現象が進み地域の住民も少ないため、町内会の活動はあまりない。そのため、隣の町内会まで範囲を広げて声をかけ、利用者との交流を行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 三番町子供神輿が毎年入り、子ども達が入居者様とふれ合って認知症の人の理解を深めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 平成23年度第1回運営推進会議で報告し、取り組みについて課題を話し合った。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員、利用者の家族等に参加してもらい2か月毎に開催している。自己評価や外部評価の結果、事業所の取り組み等を議題にしている。会議と行事を一緒に開催し参加しやすいよう工夫している。災害対策や食事等について出された意見を実践し、サービスの向上に活かしている。	地域性もあり地域住民の代表者の参加が得られにくい事情もあるが、運営推進会議を活かしてサービスの向上を図るために、多様な分野の方々に参加してもらえよう、今後も独自の工夫をするよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議では必ず、市役所介護保険課から出席をしていただき、評価をしていただいている。	
			(外部評価) 介護保険課担当者とは、看取りについて等、気軽に相談や問い合わせができる関係を構築している。また、運営推進会議に参加してもらい、意見交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解して実践している。拘束が本人をどんな気持ちにしているか、自分だったらどう思うか話し合って拘束をしない実践をしている。その人によって、工夫し畳部屋を作っている。	
			(外部評価) 事業所内の勉強会や外部で行われる研修に参加し、知識や技術を身につけたり、職員間で話し合いを行う等、身体拘束についての理解を深めている。安全に配慮しながら、利用者の行動を制限しないよう玄関等には施錠をせず自由に過ごせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で常に話し合いをしている。事例を通して全員の注意を喚起し実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 制度について話し合う事あるが、今は利用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の慌しい時を避けて、事前または入所して落ち着いてから十分に説明している。また、質問も受けて納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者の意見・希望をお聞きできることからできるだけ迅速に実践している。できないことも誠実に説明して了解を得る努力をしている。 (外部評価) 各階入り口にご意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情申立先を明記する等、家族が要望を出しやすいよう環境を整えている。家族とよく話し合いをしながら出された要望等を運営に反映させるよう努め、どのように反映されたか等の結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 反映している。業務改善委員会・レクレーション委員会など設け職員間で話し合い運営している。また、実現可能な改善点から取り組んでいる。みんなでチームで援助を行っていくという実感が沸く様に努力している。</p> <p>(外部評価) 職員は会議の時や、普段の業務中に総括担当者に意見や提案を伝えることができ、総括担当者は聞き取った意見等を本部長に伝えている。本部長は、職員の意見を可能な限り運営に反映させるよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 努めている。常に勤務との調整を行いながらできるだけ研修を行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 進めている。内部・外部の研修に個々人の能力に応じて受ける機会を確保している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会への参加、また、お招きをしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人の不安を軽減したり溶け込み易い雰囲気づくりを心がけている。ご家族が認知症を認めたくない気持ちもあり、ご本人の真実を見られない場合も多々あるが、ご家族のプライドに配慮しつつ、少しずつ、ご本人の自然な姿、気持ちを気づいていただく様に配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用のはじめに見学をしていただきホームでの雰囲気を感じていただいている。ご家庭を訪問してご本人の普段の姿を知るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞き、ホームで受け入れることもできるかできないかを見極め、他のサービスを提案もしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立支援の立場から、出来る所はしていただき、話し合いながら作業などを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族との話し合いでできる協力はしていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。自由にご本人が家族に電話をしたり、家族と出かけたり、外泊も行っている。面会時間も常識範囲内で自由だから、面会者も非常に多い。 (外部評価) 家族や親族の訪問があり、帰宅や法事参列ができるように働きかけたり、電話で話ができるよう支援をしている。事業所のあるビルの1階のコンビニに買い物によく出かけ、馴染みの関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お気に入りの人と自由に、話をしたりお部屋を訪ねあったりされている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご希望されれば相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 施設の決め事で生活を括らないで、食の嗜好や生活習慣などさまざまな点で、ご家族からの話や聞き取りの中で汲み取り、できるだけ自由に窮屈でない生活を個々でしていただいている。 (外部評価) 事前に家族に聞き取ったり、利用者との会話の中から思いや意向を把握するよう努めている。把握した情報は利用者個人の経過記録に記録し、利用者本位にケア等が提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できるだけご本人の心情を害さない範囲で普段のお話の中から、生活歴や生活習慣を知り、その人らしい考えや行動など把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り・連携を取って知った情報をみんなで共有し、ご本人の今の状態をできるだけ正確に把握し援助に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) みんなで月1回モニタリングを行い、今の援助目標で 本人の状態にあった援助ができているか確認してい る。また、新しい課題を見つけ目標達成できるように 援助している。	
			(外部評価) 介護計画については、管理者と職員で毎月モニタリ ングを行い3か月毎に見直しを行っている。利用者の状 態に変化があった場合はそのつど見直しを行ってい る。作成された介護計画は利用者や家族に確認を取っ ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 行っている。経験が浅いスタッフには例を挙げて記録 の仕方や、情報の援助への活かし方を教えている。特 に気づいた事は記録するように勉強会を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 行っている。マニュアルどおりに行うべき事と、その 人の感性を生かす事と、両方をいかせる努力をしてい る。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない自由な雰囲気支援している。子 供会との交流・コンビニへ行く事で交流する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 普段の受診に関しては、協力体制にある西田クリニッ クを受診していますが、特別にご本人が指定される主 治医があればご希望どおり受診してもらっている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関を受診できるよう支 援している。受診については家族に同行をお願いして いる。事業所は受診結果を把握し、協力医と連携し、 利用者の健康管理を適切に行うよう努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 行っている。クリニックのナース、ホームのナース介 護スタッフとの連携で、ご利用者様の体調変化につい て常に情報交換を行い体調管理に勤めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 行っている。ご相談によってご本人とご家族のご希望 どおり行っている。入院などの際は主治医からの情報 提供・介護現場からの情報提供も行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化に対応できるように西田クリニックとの連携で お看取りまでの援助を行っている。入居時や時期に応 じて、主治医・ケアマネ・ご家族と話し合いを行って いる。</p> <p>(外部評価) 看取りについて、事業所の方針を重要事項説明書に明 記し、早い段階から利用者や家族と話し合いを行って いる。利用者の変化に応じて話し合いを行い、方針を 共有している。協力医や家族と共に支援に取り組んで いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべてではないが行っている。現在はホームナース・クリニックナース・主治医まで、すばやく連絡が取れる体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防講習者2名・消防訓練・年2回常に事故を未然に防ぐ様に注意を払って業務を行なっている。さらに、毎日の申送りに注意喚起を行っている。また、立地的に地域との協力体制に苦心している。 (外部評価) 消防署の協力を得て年2回の避難訓練を行っており、夜間を想定する等、利用者の安全を確保するよう努めている。事業所のあるビルについては耐震構造になっているが、職員は日々火災をおこさないよう気を付けている。	定期の避難訓練以外にも自主訓練を行ったり、地域住民の協力については得にくい状況ではあるが、運営推進会議を通じて協力を依頼する等、今後の取り組みに期待したい。また、食料や飲料水、簡易トイレなどの備蓄や備品を準備するよう望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いをしたり内部研修を行い、姓名の呼び方や折り目正しい接し方など、常に再確認をするよう努めている。外部研修も仕事の習熟度で受講している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。また、利用者本位のケアが提供できるよう職員間で話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の気持ちを汲み取って意思決定ができるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行っている。個々人の時計で行動できるように配慮支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行っている。自分の好きな服。自分の好きな髪形思うように散髪屋さんと話ながら行ってもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 行っている。自分の嫌いなものは食べなくても代替の食べ物を作っている。また、食器拭き、食事の下ごしらえをスタッフと楽しんで手伝っていただいている。	
			(外部評価) 調理の下ごしらえや食器拭き等、利用者のできることを一緒にしてもらっている。利用者の状態に応じて、ミキサー食や軟食、刻み食を用意している。献立については、利用者の好みを大切にしながら柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 行っている。その人の状態に応じて食事の形態を変えている。現在は、普通食刻み・ミキサー食や口腔摂取が不可能な方には鼻腔からの経管栄養も取ってもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方はできるところまで、できない方は職員の介助にて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 行っている。可能な限りトイレへ行ってもらっている。その方の能力に応じてトイレ誘導、はくパンツ・オムツ介助を行っている。	
			(外部評価) 利用者は重度化傾向にあるため、トイレでの排泄が難しくなってきたが、一人ひとりの排泄パターンを把握しリハビリパンツを使用しながら、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。リハビリ体操で動けない人も少しでも動けるよう工夫している。また、食事メニュー等にも工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴介助を行っている。車椅子レベルの人は2人介助にてできるだけ湯船に浸かってもらっている。また、季節に応じて、入浴剤の工夫もして楽しんでいた。	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう準備している。入浴の苦手な利用者には声かけや誘導を工夫しながら、一人ひとりに適した入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 行っている。基本的に日課は無く、自由に自分の時間帯で過ごしてもらっている、眠る時間も・場所も強要していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 行っている。症状や状態について常に申送りし、小まめに確認し主治医に相談して指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 基本的に自由日課なのでご自分のしたいことをしていただき、外出レクリエーションを自由参加で少人数で行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力をいただき、好きなときに行きたいところへ行ってもらっている。近所への買い物も介助している。	
			(外部評価) 近くの商店街を散歩したり、デパートに頻繁に出かけている。ぶどうやイチゴ狩りに出かけたり、季節の花を見に行く等、年間計画を立て、利用者の健康状態を考慮しながら外出支援を可能な限り行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) している。小口預かり金から個人に持ってもらうことで自分で支払いをしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 行っている。手紙を出したり、自分で電話をかけたり自由にしていただいている。そしてまた、届いた手紙は読みにくい方には、読んでさし上げる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 掃除の行き届いた清潔な環境づくりに努めている。また、季節季節で野の花などを飾っている。施設全体に明るい感じに努めている。</p> <p>(外部評価) ビルの中にある事業所であるため、太陽光が取り入れられるような機材が設置されている。共用空間は清潔が保たれている。季節の花を活け、利用者の暮らしぶりの写真を掲示する等、居心地よい空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや椅子の配置を変えたり、孤立する人の無い様努力している。時に席替えも行う。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自分の気に入った馴染みの物も配置したり、好きな写真を飾ったりその人なりに、自由に行っている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には防炎加工された思い思いの暖簾が掛けられている。居室内には鏡台やいす等の使い慣れた物が持ち込まれ、さらに人形等が飾られており、利用者が落ち着くことができる、居心地のよい環境が作り上げられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) できる範囲でできることを疲れない程度に行っている。</p>	